

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071000309		
法人名	株式会社 トミタ		
事業所名	グループホーム なかよし倶楽部		
所在地	群馬県富岡市七日市676-4		
自己評価作成日	平成30年1月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成30年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所された方が最期まで安心して生活できるようにご家族様の思い、利用者様の思いを良く伺い共に考えながらケアを実践しています。
元気な時には外出・外食・買い物など、ニーズに応じて対応しています。ホーム内に閉じこもるのではなくできる限り生活を楽しんで頂けるようにしています。
病院が近いと言う利便性を生かし、お看取りも医師・訪問看護と連携し安心して旅立てるようチームで援助できる体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時からの理念を踏まえ、利用者に合わせて支援のあり方として「介護は快護」という目標掲げ、日々のケアにあたっている。散歩に出かけた際には、道路のゴミ拾いなど地域に溶け込んだ活動を行い、地域とのつながりを持てるようにしている。また、介護保険関係の更新手続きの際には、利用者とともに市役所へ出向き、利用者自ら名前を書いてもらうなど「自分で出来ること」の維持に努めている。入浴支援においては、寝たきりであっても、浴槽に入って湯船に浸かれるよう介助し、衣類の着脱が出来る利用者には入浴後の着替えを自室で自分のペースで行えるようそれぞれに合わせた支援に努めている。利用者の意向の把握においては、年に1回、行きたいところや食べたい物、余暇の過ごし方、最期の迎え方などについて、聞き取りアンケートを行い支援に活かすよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は業務や会議を通して話し合う機会を設け理念を共有し実践できるように努めている。	開設当時から理念を掲げ、「介護は快護」を目標に、利用者個々に合わせた介護を心がけ、それぞれがいつもと変わらない生活が送れるよう見守りながら支援にあたっている。朝の申し送りの際には、日々のケアが利用者個々にとってどうかを話し合い、職員間の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方とのつながりは日常的に行われており日常的に交流している 散歩などでは挨拶を交わすなど交流がみられる	事業所としては、隣保班に入り清掃活動などに参加するなど地域とのつながりを持てるよう努めており、緊急時には近隣の人が駆けつけてくれるなどの協力体制が築けている。また、利用者とともに地域のお祭りに参加、高校生の実習受け入れなどを通して、利用者が地域と交流出来るよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者家族や近隣の方からの相談を受ける事もあり認知症の方への接し方などを伝えている 年末には地域ケアマネさん会議に参加し施設での取り組みなどを伝える場を頂きアピールする事ができた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では報告などを行っているが案内に対しての集まりが良くない 参加できない方へは報告書を渡し文書で報告をしている	運営推進会議は、事業所の行事に併せて行われている。参加者は、職員、家族と利用者を中心で、構成員である市の担当者や地域の民生委員、区長などの参加が少ない状況となっている。	地域の理解を得るためにも、市の職員や地域の役員など外部の人に参加してもらい、事業所の取り組みなどについて意見をもらえるよう、引き続き、工夫しながら積極的に働きかけていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは連絡を取るようになっている、毎月の活動報告などもFAXで送るのではなく市役所へ出向き直接渡すようになっている	書類提出の際には、市役所へ直接出向き相談などを行っている。介護保険の更新手続きの際には利用者とともに訪れ、事業所に対する理解を深めてもらえるような取り組みも行い、協力関係が築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での身体拘束は行わない方針だが、玄関の施錠に関しては目の前が道路のため常時施錠を心がけ、事故防止に努めている	日々のケアにおいて気をつけることなどは、朝の申し送り時に管理者が職員に伝えているが、職員が身体拘束に関して学べる研修などの機会や話し合う場が設けられていない。玄関は交通量の多い道路に面しているため、常時施錠されているが、利用者が外に出たがっている際には一緒にいて行くなどの対応をしている。	身体拘束に関する研修会については、開催される地域を広げて検討し、職員が参加できるよう取り組むとともに、研修を踏まえた職員間の話し合いの機会を設けることなども期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者へは尊厳を持って対応するように伝えている、安易に伝えている言葉も虐待に当たる怖さを伝えるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年入所された方のケースで活用方法をしっかりと学ぶ事ができた 家族間でのトラブルが起こらないよう補助人を付ける事ができた、成年後見人制度を活用するのはとても大変なことが分かった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をかけ説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、管理者はご家族と話す機会を設け意見や要望などを伺っている、要望などを反映できるよう努めている。	面会時などに意見や要望など聞くようにしており、日常的なケアに関しての要望があれば対応するようにしているが、運営に関する意見はあまり出されない状況である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常感じる事や働き方の要望などは管理者と話す機会を設け伝えられるようにしている 管理者は全体会議に参加し代表者に職員からの意見を伝え、必要に応じて直接話す機会を設けている	管理者は、朝の申し送り時や昼の休憩時間などを利用して職員の意見を聞き取っており、時給など処遇に関することは必要に応じて会社に伝えるなどの対応をしている。運営に関する意見はあまり出されないが、夜勤専門職員と日勤職員の連携に関して職員の意見を受けて改善が図られた事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や要望は管理者に届き、会議やその他の時間で代表者に伝えるようにしている。働きやすい環境を整えられるように努力して頂いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量については管理者が代表者に伝え概ね把握している 研修などの機会確保については勤務時間内に行えるよう配慮されている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修には参加できるようにしている、異業種研修や地域の勉強会にはなるべく参加している (富総・西毛・七日市・高齢介護課等の主催)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より面会などを通して話し、要望などを伺い安心できる生活が送れるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より困っている事や不安などを伺い、共に解決方法を考えながら良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が困っている事やどのような支援が必要か良く話し合い対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	決まった介護を行うのではなく、生活する中で共に行えることを考え助け合いながら生活できるように考えて実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常にコミュニケーションを取り利用者の事を伝え、共に考え必要な支援は何かを相談している。遠方の家族にはメールや写真などで現状を伝え共有できるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の休みには自宅で過ごしたり、ドライブの過程で自宅の確認をしたりできる機会を設け馴染みの場所や人との繋がりを続けられるよう支援に努めている	利用者が以前勤めていたところや住んでいた自宅の付近をドライブの途中で立ち寄り、地元のお祭りや神社に出かけるなど、これまで利用者が馴染んできた場所との思い出が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の特性を良く考え席の配置を決めるようにしている、お互いの特性を理解しており支え合う場面も時々見られる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近是最期まで施設で過ごされる方が多く、お看取りによる退所が多い 退所された後も家族を気遣うようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に合わせた暮らし方ができるように意向を確認している。話が出来なくなった時には現状に合わせて穏やかに過ごせるように努めている	年に1回、行きたいところや食べたいもの、余暇の過ごし方、病気の際の対応や最期の迎え方などについてアンケートを行い、利用者の意向に沿った支援が提供できるよう取り組んでいる。また、日頃から、入浴の際やお茶の時間などに会話をしながら、利用者の気持ちをくみ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や年齢などそれぞれ異なるため情報収集し、これからの暮らし方を考えている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日課をお仕着せでなく選択できるようにしている、年齢や疾病により暮らし方が異なるため考慮している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てる際にはサービス担当者会議を開きスタッフの意見を聞いている、適時家族に対しても要望を確認している 看取りの際には医療関係者・訪問看護とチームを作り援助できる体制を整えている	日々の観察記録・生活記録から支援経過を把握し、毎月モニタリングを行っている。家族の意見も踏まえ、サービス担当者会議で意見交換し、3ヶ月毎の見直しをしている。	介護記録について、介護計画のサービス内容に沿った記載となるよう工夫されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録には日常生活を記録し情報を共有し、日々の介護実践や介護計画に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズには細やかに対応している、必要とされる事柄にはどのようにしたら対応できるかを考え職員間で話し合い支援できる体制を整えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所された時に把握するようにし、必要な時には活用し暮らしに役立てるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医は継続し必要な医療が受けられるようにしている 他への受診の際はかかりつけ医に報告し病状を共有できるようにしている	家族の意向を受けて、希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。受診にあたっては、利用者の日々の様子が伝えられるよう事業所が対応している。家族へは受診の結果を、メールや電話、手紙などで伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護師不在のため日常の観察記録を付け介護職間で共有している 受診の際には報告し相談をしている 必要な時には訪問看護を契約しチームで支えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には病院SWと話し合いの場に家族と共に同席し病状を確認している 家族と利用者の意見を確認し早期に受け入れられるよう体制を整えている 病院関係者との関係づくりは日頃から行いいつでも相談できるようになっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に書面を渡し説明しているが、病状が変化するごとに確認を行い終末期の過ごし方などを確認している 最期までホームでの暮らしを望む方にはチームで支援できる体制を整えている	看取り指針に基づき取り組んでいる。状態の変化があった際には、医師、訪問看護師と話し合い、家族とも相談し、意向に沿った対応に努めている。看取りがあった時には、対応した職員のケアにも配慮し、その日のうちに当日の職員で話し合い振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故での対応は随時訓練を行っている、終末期についての急変には訪問看護を入れる事で体制を整えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には外への誘導を行うとともに広い場所で待機できるように確認している 地域との協力体制は声を掛ける事で駆けつけるように日頃から関係づくりをしている	消防署立ち会いの下での訓練は行われていない。近隣住民に対しては、いざというときの協力は依頼しているが、訓練には参加してもらっていない。	消防署立ち会いの下での避難訓練を実施するとともに、近隣の人にも働きかけ、参加してもらえるような取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症でも自尊心を保っている事を理解し、各々に合わせた言葉掛けをしている 個々のプライバシーは大事に考え対応するようにしている	基本的には名字や名前に「さん」をつけて呼んでいるが、以前教師だった利用者に対しては「先生」と呼ぶなど、利用者に応じた対応をしている。日々職員には言葉遣いに気をつけるよう指導しており、利用者が失禁してしまった場合などには、してしまったことを注意するのではなく、これからのことについて話しかけるよう意識して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の希望を表せる方には添えるような対応を行い、言葉で表す事ができない方には意思をくみ取れるようなコミュニケーションを取れるように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課を作っているが強制ではなく選択できるようにしている 個々の希望があった時にはできる限り希望に沿うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の理解や着衣の順序などもわからない方が居るので、準備をし見守りしている 自身で衣類管理ができるように季節に合わせて入れ替えを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やテーブル拭き、食器拭きなどできる事を依頼し一緒にやっている	アンケートで好きなもの、食べたいものなど聞き取っているほか、日頃からその都度声かけを行い、利用者の希望を献立に反映するよう努めている。職員が交代で献立を作り調理し、おやつはなるべく手作りのものを出すようにしている。利用者は自分の前のテーブルを拭くことや、食器ふきや野菜の皮むきなど手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は季節の食材を使い手作りの物を提供している 好みや禁止食材は事前に把握し適量を提供できるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは3食毎に行えるよう声掛けをしている、義歯の方は消毒を行い清潔を保てるようにしている 口腔内や歯で問題が起きた時には近所の歯科医院で見て頂くようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を記録しリズムを把握し適時トイレ誘導や声掛けを行い自立に向けた支援を行っている 個々の希望に合わせて居室にトイレを設置し使っている	排泄点検表で利用者個々のパターンを把握し、さりげなく声かけを行い、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を記録し個々の状況を把握し水分や食物、適度な運動などで排泄を促すようにしている、その他主治医と相談し適切な便秘薬を処方して頂き服薬管理している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の配置に合わせて大まかな日程は決めているが、ゆっくりと楽しんで頂けるように工夫している 一度に全員を入れようとせず個々のペースで入って頂くようにしている	利用者の状態に合わせてながら、週2回は入浴できるようにしている。寝たきりの利用者も浴槽に入れるよう介助しており、また、利用者がくつろげるよう、浴室内に造花を飾って会話のきっかけにするなどの工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて何時でも休息を取って頂くようにしている 陽だまりの中ソファで寛ぐなど好みの場所で休めるように工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医から処方される内服薬については職員間で理解し変更があった時などはその都度伝え情報の共有ができるようにしている かかりつけ薬局との連携も取れておりいつでも相談できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望に合わせて支援している、役所への申請なども自身でサインをし出向いて申請できるよう支援している 役割を持って暮らして頂くよう適時できる事をお願いしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の好きな方やそうでない方もいるので、できる限りニーズを確認し個別の支援を行っている 季節ごとに楽しめる事を考えいつでも出かけられるように支援している	入浴日でない天気の良い日には、利用者の希望を聞いてドライブや散歩に出かけられるよう支援している。季節の花見や地域のお祭りなどに出かけたり、受診の帰りにカフェへ寄ったりなど、利用者個々に応じた支援を行うよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの預り金は事務所で管理し手元には持たないようにしているが、買い物・外出の時には希望があれば自分で払うようにしている 任された時には職員が代わりに支払いを行いその都度説明をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話や手紙が出せるよう支援している、年賀状に写真を入れ現状を報告している 家族との関係が取れないケースもあるのでそれらについては職員も把握している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は天窓が大きく空き採光を取り入れ暖かな雰囲気を保てるようにしている ホールや玄関には観葉植物や花を飾り居心地の良い空間を保てるように工夫している	ホールや玄関には、観葉植物が置かれている。ホールは、利用者が食後などにゆっくり座って外が眺められるようにソファを配置するなどしており、また、雰囲気が明るくなるよう、職員が作成した切り絵などが貼られ飾り物も吊されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事するテーブルと離れた窓辺にソファを置き好みの場所で過ごせるよう工夫している 食後の休み時間窓辺のソファで寛ぐ事を好まれる方が居るので見守りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はテレビや小さいタンスを置き好みの空間を作るようにしている タンスの衣類なども季節ごとに入れ替え混乱しないよう選べるようにしている	ベットは事業所が用意し、利用者個々の好みや身体状況に合わせて配置されている。利用者が使い慣れた枕や布団など、中にはテレビや小ダンスなども持ち込まれている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内で迷わないよう居室の案内やトイレの位置などがわかるように工夫している 個々の暮らし方を職員は把握し危険の無いよう見守りや声掛けを行うようにしている		